

障害のある人たちが 活躍できる職場環境を 考えよう！

知的・発達障害 編



このパンフレットは、知的障害や発達障害のある人たちにとって働きやすい環境を考えるためのものです。ビルメンテナンス作業を中心に、先進的な取り組みをしている企業や特別支援学校等を紹介しています。

誰もが得意なことを活かして働けます！

知的障害や発達障害の人たちの多くは、「その場に合った適切な判断」や「臨機応変な対応」、「段取りよく仕事を進める」ことが苦手です。そのため仕事で自分の役割を果たせず、仕事が進まないこともあります。

しかし、周囲の理解や働く環境を整えば、本人の得意なことを活かして働くことができます。また、知的障害や発達障害のある人たちの特性に配慮された職場は、障害の有無に関係なく誰もが働きやすい職場になると考えます。

コツコツと同じことを続けるのが得意です

目で見て判断するのが得意です

決まったルールを守るのが得意です



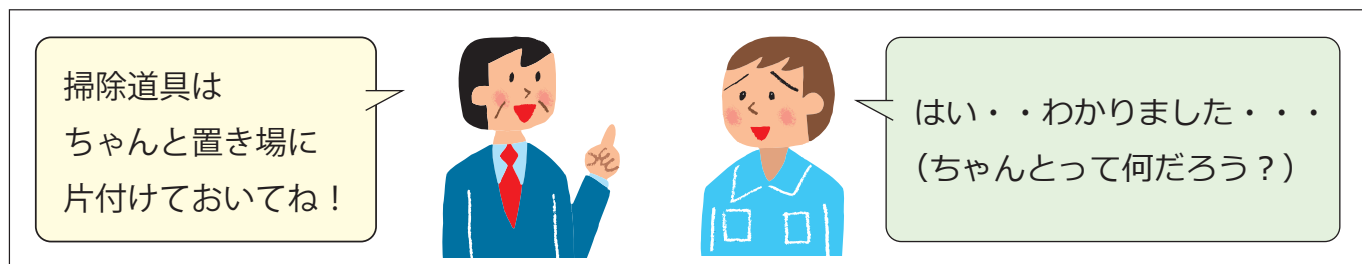
**得意なことを活かすには、
いくつかのポイントがあります。**

言葉に頼らない作業環境をつくらう！

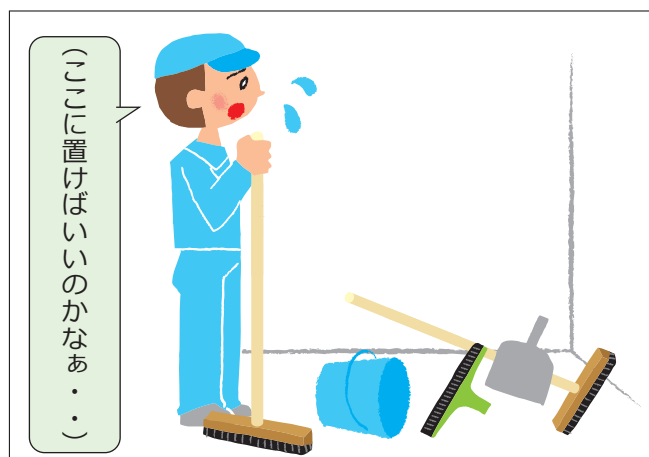
「ちゃんと片付けておいて」「そこに置いて」「ちょっと待って」などは、私たちが普段にげなく使っている言葉です。しかし、知的障害や発達障害のある人たちにとっては、その「ちゃんと」や「そこ」「ちょっと」は実態のない実にあいまいで分かりづらい言葉であることが多いのです。そのため、仕事の指示などの意味が伝わらず、仕事に支障をきたしてしまうことも少なくありません。

「言葉に頼らない作業環境づくり」とは、職場でのコミュニケーションにおける言葉のあいまいさをできるだけ排除し、目で見てわかる環境に造り替えていく試みなのです。私たちがイメージする「ちゃんと」を、作業工程や指示内容を「見える化」して伝えていく工夫が大切になります。作業環境がそのように整うことによって、障害のある人たちも優秀な働き手として活躍できるようになると考えます。

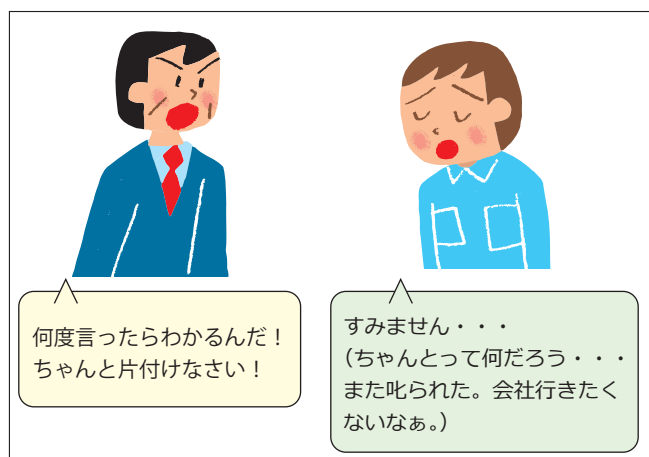
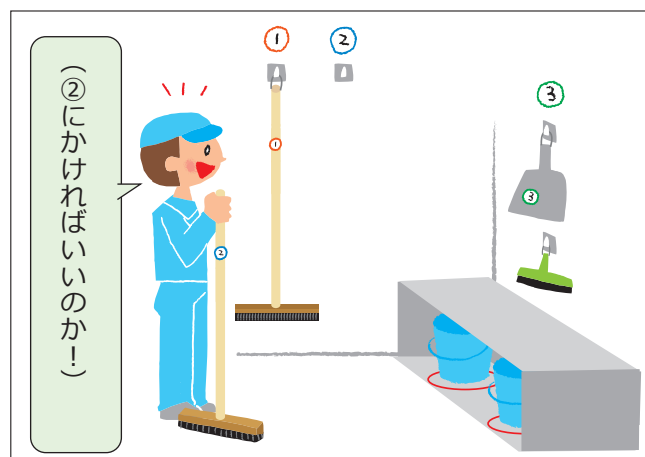
例：掃除道具の片付けの場面



【環境の工夫をしていない場合】

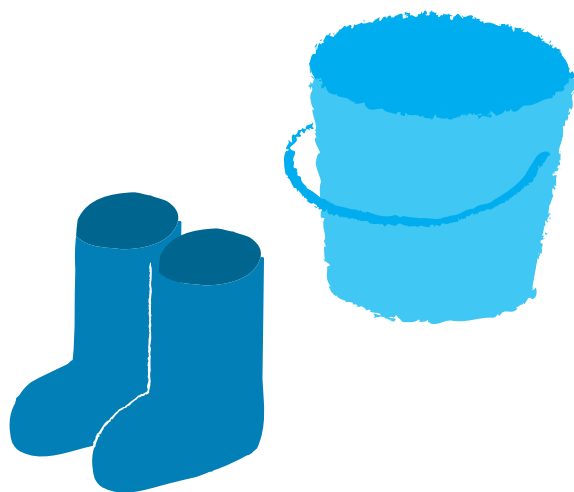


【環境の工夫をしている場合】



目で見て わかりやすく！

知的障害や発達障害のある人たちの多くは、言葉を聞いて理解するよりも**目で見て理解することの方が得意**とされています。仕事の基本となる整理整頓の場面では、使った掃除道具などの片づけ方を、掃除道具ひとつひとつに対応させて見て分かる形で示しておくことがポイントのひとつとなります。



【掃除道具置き場】

モップやほうきなどの収納位置がひとめで分かるよう、種類ごとに分けた壁掛けにしています。
((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【収納のガイド】

モップと同じ形状のイラストを壁に書き、ピタッと合わせられる収納になっています。
((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【バケツ置き場】

バケツを収納する棚に円を描くことで、バケツの置き場所を明確に指示しています。また、棚とバケツの名前シールを照らし合わせることで個人の置き場所も間違わず、バケツの向きも整然としています。
((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【長靴置き場】

足跡マークを棚に描き、長靴の置き場と置く向きを明確にしています。
((株) 富士通ゼネラルハートウエア)

※名前部分は加工しています。



【タオル分類】

タオルを用途別に分類するため、写真と文字を使い、またタオルを色分けにしています。
 ((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【倉庫】

掃除用具の在庫管理も半透明のケースに入れ、分かりやすく分類しています。
 ((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【スプレー】

自分が使う掃除道具（スプレー）には番号がついているため間違いを防ぐことができます。
 (横浜市立若葉台特別支援学校)



【ゴミ袋】

大小さまざまなサイズのゴミ袋は、入れ物のサイズを変えることで、分かりやすく分類できるようにしています。
 ((株) ニッパツ・ハーモニー)



【消火器置き場】

消火器の位置を示すサイン。漢字だけではなく、消火器のイラストを用いています。
 (日本理化学工業 (株))

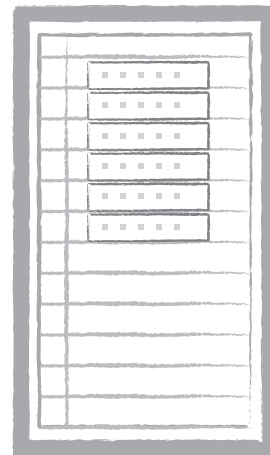


【階段の名称】

複数ある階段を間違えないように、階段にキャラクターのシールを貼りました。
 ((株) ニッパツ・ハーモニー)

スケジュールや手順を 明確にしよう！

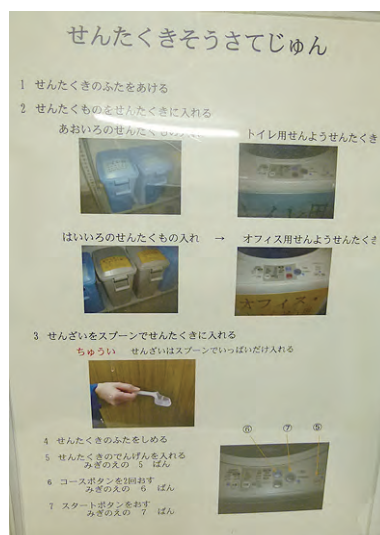
知的障害や発達障害のある人たちの多くは、仕事の見通しを持つこと、仕事を段取ることが苦手だと言われています。そのため、仕事の量や時間、手順などを「見える化」していくことがポイントのひとつとなります。スケジュールボードや手順表などを使うことによって、障害のある人でも見通しを持った活動ができるようになり、作業効率も驚くほど向上するはずですよ。



【スケジュール】

1日のスケジュールを目で見てわかるようにマグネットを時系列に並べて掲示しています。終わった活動のマグネットは下のトレーにいれます。

(東やまた工房)



【手順書】

洗濯機の操作手順を文字と写真を使って説明しています。

((株) 富士通ゼネラルハートウエア)



【身だしなみチェック】

外に出る際に身だしなみチェックを忘れないよう出口近くの鏡前に足跡マークを貼り、身だしなみのチェック項目を鏡の横に図示しています。

(神奈川県立相模原中央支援学校)



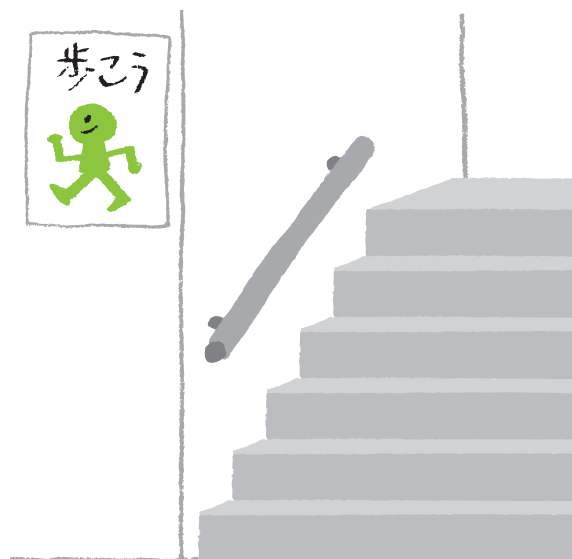
【安全対策】

高温のプレスを使う時にはあやまって手を挟むことがないように両手を使ってスイッチを押すようにしています。

(日本理化学工業(株))

職場のルールも わかりやすく！

職場にはさまざまな「常識」があり、「暗黙の了解」があります。しかし、その「常識」や「暗黙の了解」は私たちが思っていることであり、知的障害や発達障害がある人たちにとっては「常識」「暗黙の了解」とならないことが少なくありません。大切なのは、職場での「常識」や「暗黙の了解」をひとつひとつ職場のルールに転換して定め、彼らに分かりやすい形で伝えていくことです。イラストや写真などを用いたり、動作を促すデザインなどを活用したりすることも大きな効果につながります。



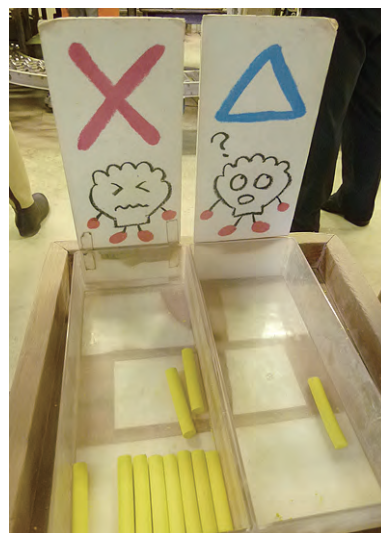
【サイン】
職場内を走らないように促すサイン。走るスタッフがいた時に作成しました。
(日本理化学工業 (株))



【サイン】
ドアを開けたら閉めることを促すサインです。
(日本理化学工業 (株))



【靴底の汚れとり】
雨天時などで靴底が汚れた場合、泥を落とすような形状の装置を玄関に置いています。
(株) ニッパツ・ハーモニー



【検品作業】
チョコの検品作業で、大きく曲がっていたり穴が開いているものは×。判断がつかないものは△マークに入れるようになっています。
(日本理化学工業 (株))

目で見て分かる工夫で サービス向上！

老人ホームなどの室内清掃の場面では、特にベッドまわりの清掃が難しい場合があります。ベッド上の枕やティッシュなどはシーツ交換した後も元の場所に戻す必要があったり、ベッド下を掃除したあともベッドの高さを利用者の使いやすい元の位置に戻す必要があります。掃除をしたから使いにくくなったと言われないように作業を検討しましょう。



【ビニルシート上に再現】
シーツ交換時は床にビニルシートを敷きベッド上の配置を再現します。
(フローレンスリンクス)

【ベッド上のレイアウト】
シーツ交換が終わった後は、枕や紙袋などをもとの位置に戻します。
(フローレンスリンクス)



【ベッドの高さ】
モップの柄に輪ゴムをつけることでベッドの高さを記録するようにしています。
(フローレンスリンクス)



【ぞうきん】
使う前は絞った形状、使った後は開いた状態のぞうきんになっており、使用前後が明確です。
(フローレンスリンクス)

意欲を高める 仕組みを作ろう！



知的障害や発達障害のある人たちの中には、さまざまな理由で仕事をおこなう意欲（モチベーション）が低下することがあります。仕事の達成感ややりがいといった目に見えないことは理解できない場合もあります。

本人の性格を考慮したうえで、職場のスタッフと相談しながら意欲を高められるような工夫とともに、「がんばっているね！」「ありがとう！」などの声かけがあると、より力が発揮されます。



【ステッカー】
「私たちが掃除しました」という旨のステッカーをバス清掃の最後に貼っています。
(横浜市立若葉台特別支援学校)



【ライト】
作業のスピードに合わせてランプの色が変わります。遅い時は赤色、少し遅いが黄色、順調が緑色を表示します。
(ダイア磁子)



【アビリンピックの練習】
職場内にアビリンピック（全国障害者技能競技大会）の練習場があります。
(株)ニッパツ・ハーモニー



【ボードで情報共有】
スタッフ全員が集まる食堂に行事の写真や活動テーマ等の情報を掲載しています。
(日本理化学工業(株))

こんな工夫はどうでしょう？①

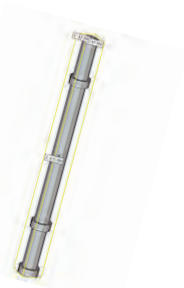


ほうきの持ち手を 分かりやすくしました！

作業にはさまざまなルールや決まりごとがあります。たとえば、自在ぼうきを使う時は、ほうきの先端を親指で押さえることで、清掃中に人や壁にほうきの先端があたらないようにします。しかし、そのようなほうきの持ち方を覚えることが大変な場合もあります。もし、ほうきに持ち方を誘導するガイドがあったら、自然と安全なほうきの持ち方ができるかもしれません。



【自在ぼうきの持ち手】
3D プリンタを使って既存の自在ぼうきに新たな持ち手を取り付けました。



★を自分に向けます

【★マークを胸の前に】
緑色の★マークを自分の胸の前に向けると、ほうきが正しい角度に固定されます。



右手は赤です

左手は青です

【手の置き場】
右手の親指は赤色に置き、左手は青色をにぎるように指示を出すと、ほうきを容易に持つことができます。



【正しい姿勢】
ほうきの持ち手を工夫するだけで、自然と正しい姿勢をとることができます。

こんな工夫はどうでしょう？②

廊下の中央に線を引いて 実験しました！

作清掃の基本となる掃き掃除。しかし、どこにゴミをあつめて、どのような手順で掃けばよいのか、理解することが難しい場合もあります。

たとえば、廊下の中央にあらかじめ線が引いてあり、その線まで掃くというルールを設定すれば、理解が促され作業効率が上がる可能性があります。



【調査対象】

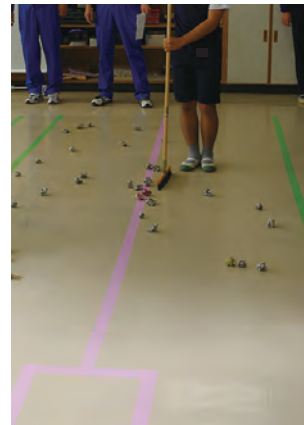
対象：A 中学校（個別支援学級）
人数：13 名（男性 9 名、女性 4 名）



【中央線なし】

【実験条件】

幅 1.8m、長さ 4.0mの廊下を作り、その中にゴミ（直径 4cm 程度に丸めた新聞紙）を 40 個散乱させ、写真右上から右下に進み、さらに、左下から左上に進みます。ゴミは中央に集め、最後に写真下側に向かってゴミを集めます。



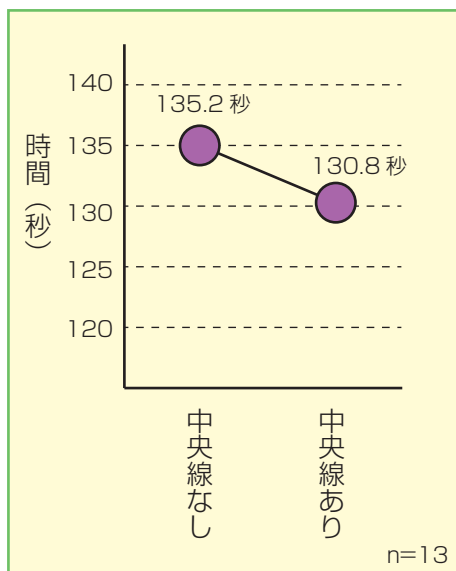
【中央線あり】

【実験条件】

左の実験条件と同様の廊下を再現し、廊下の中央にピンク色のテープで線を引きます。その線上にゴミを集めます。最後はピンクの線上に集まったゴミを四角で囲んだ中に集めます。作業手順は左の条件と同様です。

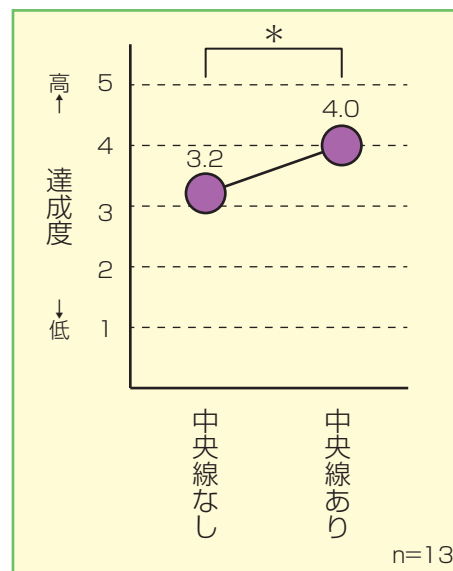
結果

中央に線を引くことで
作業時間が短縮されました！



平均作業時間の変化

中央に線を引くことで
達成度が向上しました！



平均達成度の変化

* : $p < 0.05$

【達成度】

【達成度 1】

全体の 75%以上の動作支援（肩やほうきの柄をもつ）で達成できた。

【達成度 2】

全体の半分程度の動作支援で達成できた。

【達成度 3】

全体の 25%程度の動作支援で達成できた。

【達成度 4】

声かけや指さしの支援のみで達成できた。

【達成度 5】

支援の必要がなく達成できた。

おわりに

このパンフレットで紹介してきた事例の多くは「**構造化（こうぞうか）**」と呼ばれる支援を活用しています。

構造化とは、「自閉症の人に周囲で何が起きているのか、そして彼ら一人ひとりの機能に合わせて、何をすればよいのかを分かりやすく提示する方法^{*1}」です。

つまり、仕事をする上では、「**自分がどう行動すればいいのか**」を分かりやすく提示することです。この構造化を職場の中で実践し、定着させていくことがとても大切になります。



本人の個性や理解できる内容に合わせて取り組んでみましょう。

また、**TEACCH^{*2} プログラム**では、自閉症の人の欠勤率の低さ、信頼性と確実性などの理由で、大きな会社が**自閉症の人をくり返し採用**している^{*3}という報告もされています。

このパンフレットの内容は、実際におこなわれている支援の一部ですが、少しでも知的障害や発達障害のある人たちが活躍できる職場環境が整う手助けになれば幸いです。

※1）佐々木正美：自閉症児のための TEACCH ハンドブック、学研、2008

※2）TEACCH（ティーチ）とは「Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children」のそれぞれの頭文字をとった造語で、「自閉症及び関連するコミュニケーション障害をもつ子どもたちのための治療と教育」という意味。アメリカ・ノースカロライナ州立大学を基盤に実践されている、自閉症の方々やそのご家族、支援者を対象にした包括的なプログラムのことを指す。

※3）パトリシアン・ハウリン：自閉症成人期にむけての準備能力の高い自閉症の人を中心に、ぶどう社、2002

取材した企業および学校等

日本理化学工業株式会社
株式会社富士通ゼネラルハートウエア
株式会社ニッパツ・ハーモニー
フローレンスリンクス（工藤建設株式会社）
株式会社大協製作所
タキオン（社会福祉法人幸会）
ダイア磯子（社会福祉法人同愛会）
東やまた工房（社会福祉法人横浜やまびこの里）

横浜市立若葉台特別支援学校
横浜市立港南台ひの特別支援学校
神奈川県立相模原中央支援学校
（順不同）



【調査チーム】

西村 顕（横浜市総合リハビリテーションセンター・一級建築士）
西 則彦（横浜市総合リハビリテーションセンター・作業療法士）
田代知恵（横浜市総合リハビリテーションセンター・職業指導員）
山田裕実（横浜国立大学大学院・大学院生）

【協力】

内田 進（神奈川県中小企業団体中央会）
千田泰寛（横浜建物管理協同組合）

イラスト：うつみちはる